

## 南アルプスの動物

### クマからチョウまで

南アルプスの緑豊かな森には、30種類以上の哺乳類の生息地です。その中には、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ニホンザル、ニホンイノシシ、キタキツネ、オコジョなどが含まれます。

また、南アルプスには絶滅危惧種のニホンイヌワシ (*Aquila chrysaetos japonica*) が複数ペア生息していると考えられています。ニホンイヌワシは、翼を広げると2メートルにもなる日本最大級の鳥類です。崖に巣を作り、生息地の頂点捕食者としてウサギ、キツネ、オコジョ、ヘビなどを捕食します。

しかし、訪問者が目にする可能性が高いのはライチョウ (*Lagopus muta japonica*) の方でしょう；ライチョウはキジ科の地上採食鳥で、山頂周辺のハイマツの間に生息しています。その羽毛は、暖かい季節にはまだらの灰色ですが、冬には白に変化し、岩が多い環境でも雪の多い環境でも季節に応じた保護色になります。高山帯の矮性ハイマツに生息する別の鳥は、ホシガラス (*Nucifraga caryocatactes*) です。ホシガラスは、長い嘴と斑点のあるダークブラウンの羽、そして下尾筒の白い先端によって識別できます。

夏に注目すべき色鮮やかな生き物には、クモマツマキチョウ (*Anthocharis cardamines nipponica*) がいます。本州の数山のみで生息しているこの蝶は、日本列島が陸橋でアジア大陸とつながっていた氷河期に日本にやってきて、その後、気候が温暖化するにつれて高地に移動しました。